

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

研究会合報告-1996年

雑誌名	アジア・アフリカ文化研究所研究年報
巻	31
ページ	222-235
発行年	1996
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00011249/



も多数出され、活発な討論が行われた。

終了後、甫水会館四階会議室において、懇親会を催した。(文責 竹内)

研究例会

近代化と伝統文化の日韓比較・韓国東海岸の漁村予備調査報告

(二月九日) 研究員 高橋 統一

研究員 松本 誠一

シンポジウム

国際的企業活動に見る文化接触 II

一九九六年一月二日

会場…東洋大学白山スカイホール

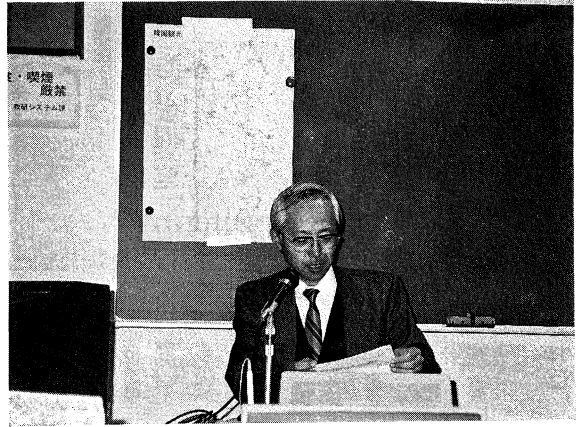
別掲へ報告(一八九頁～二二六頁)の通り、一月二日(土)に白山スカイホールにおいて開催した。昨年の第一回に続き異文化でのコミュニケーションの場を日本の国際的な企業活動の場にもとめ討論を試みた。

基調報告を、(株)日立製作所国際事業本部・本部次長 小浜正幸氏、日本カラジャス鉄鉱石(株)業務部長・小田川圭甫氏に依頼。司会…高橋統一研究員。針生清人所長の開会挨拶の後、高橋研究員の進行により、二氏の基調報告および討論が行われた。報告および討論の内容については、別掲へ報告参照。当日は例年に比べ参加者が少なかったが、学外からの参加を含め約六〇名でシンポジウムが行われた。質問紙による会場からの意見



高橋 統一 研究員

本研究所と韓国・安東大の民俗学研究所は一九九四・九五の両年度に、島根県大田市の漁村と山村で共同調査を実施したが——その成果は『研究年報』30号に発表——一九六・九七年度には同様に、韓国で共同調査をすることになった。そこで、そのための予備調査で高橋と松本が八月四日～一日に韓国に滞在したので、その概要をスライドとビデオを通じて報告し、本調査へむけての問題点などにも若干言及した次第である。調査地は慶尚北道蔚珍郡竹辺面竹辺里という漁村である。なお、韓国側の予備調査参加者は次の六名である。成炳禧(民俗芸能)、李南植(社会組



松本 誠 — 研究員

織)、千恵淑(神話伝承・民俗学研究所長)、尹淑景(食文化)、裴正仁(住文化)、金美栄(社会民俗)。

報告は日記代りのフィールドノートを整理した程度のもので、その目次のみを記し、内容は省略させていただく。いずれ本調査終了後に、まとまった報告論文を発表したいと考えている。今回の予備調査報告の目次は以下の通りである。(一)安東大と陶山書

院、(二)蔚珍——郷校と宗親会、(三)竹辺——漁村契と老人亭、(四)漁村社会の伝統——竹辺三里。

研究例会

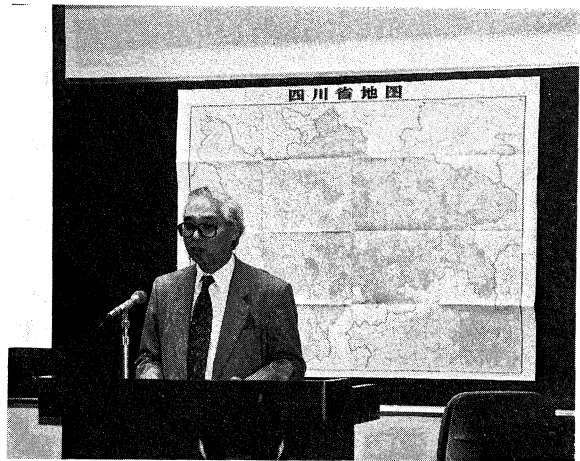
中国長江三峡について

——歴史的三峡をめぐって——

(一九九七年二月八日) 研究員 飯塚 勝 重

一九九四・九六年と二回にわたり三峡下りを行った経験と、△華陽国

研究会合報告



飯塚 勝重 研究員

志▽訳注の共同研究の成果などを基に、長江三峡の原初的あり方を追究、△文選▽△水経注▽などに見る、「巴の三峡」、「巴東の三峡」などを現代に至るまで通観し、名称問題を軸とする現三峡との関連を検討した。併せて現三峡ダムの工事段階における問題点、ダム完成後の三峡のあり様についても触れた。(本誌

「長江三峡考」参照)

おことわり

一九九六年三月一六日に開催した、エーザイ株式会社アジア部販促推進室長 H・GARG氏による公開講演会「Cross-Cultural Interaction and Asian Values」の報告記事は、編集の都合上、本誌七一(一一八)頁〜七六(一一三)頁に掲載致しました。